～最新技術の活用による鳥獣被害対策等実証事業～

〔令和5年度実施地区〕 山形市 本沢地区

■実施体制
●実施主体：本沢地区自治会連合会
●アドバイザー：吉田 淳久 氏（株式会社 地域環境計画）

■地区のプロフィール
●地区内の戸数：1,146戸　うち農家数約190戸
●主な被害作物：ぶどう（デラウエア、シャインマスカット）、水稲
（令和４年度被害金額　約2,176千円）
●主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ、ハクビシン

1．取組のきっかけ

●本沢地区は農業が盛んな地域で、特産の「本沢ぶどう」「本沢青菜漬」「堀込せり」は全国的にも有名な農産物であるが、イノシシ、ツキノワグマ、ハクビシンによる農作物被害が増加しており、農耕者の意欲低下、耕作放棄地の増加、地域内での鳥獣対策の意識格差などの課題がある。個人での鳥獣防護柵の設置や有害鳥獣実施隊による捕獲に努めているが、被害の減少には至っていない現状である。今回、事業を通して鳥獣対策に関しての意識啓発を促し、地区全体での対策の第一歩となることを目指す。
●令和４年度に市内東側の山寺地区で同事業を行っている経緯があり、市内西側の本沢地区でドローン活用による集落環境点検、生息状況調査、AIわな（自動検出AI通報システム）実施事業を行うことでさらなる対策強化を図る。

2．取組の内容

●ドローンを活用した集落環境点検
集落の現状を把握し課題と対策を検討するため、また地区住民でそれらを共有するための集落環境点検を、ドローンを活用して省力化及び効率化を図った。
●ドローンを活用した鳥獣生息状況調査
赤外線カメラを搭載したドローンによる夜間撮影により、地区への鳥獣の出没状況を調査した。
●自動検出AI通報システムの実証
わな捕獲における省力化及び効率化を図るため、自動撮影カメラによる撮影画像をAI解析し獣種判別して通知するシステムの実証を行った。
●基礎知識講習会
イノシシやクマの生態、対策に関する基礎知識の習得及び地域ぐるみで取り組む意識の醸成を図るため、講習会を3回実施した。
●電気柵設置講習
電気柵の仕組みと効果的な設置について理解を深めるため、座学と現地での設置講習を実施した。
●対策及び取り組み方針の意見交換
事業で集約した地域の環境や出没状況を踏まえ、今後地区として取り組む対策や課題について、意見交換を行った。

ドローンによる集落環境の撮影

電気柵設置講習

取り組み方針の意見交換

3．課題と今後の展望

●ドローンにより作成した図面は視覚的に理解しやすく、地区の現状や対策を検討する有効な資料となったが、解像度には限界があり、詳細を把握するためには現地での補足調査が必要である。また、住民が現地を直接見ることも大切であり、今後もドローンと現地確認を適宜組み合わせることでより有効な手法となる。
●研修会では防護柵の設置費用に対する懸念が取り組みハードルの一つと課題整理し、今後、補助事業に関する勉強会を実施する方針を確認するとともに、継続的に話し合いの場を設け、鳥獣対策の推進を図る。